

「青少年リーダー研修」 発表



岩川小学校吹奏楽部の演奏

2

係の強い絆の結び付きを目指 力し合う心」を育て、人間関 と人との触れ合い」を通して 達の健全育成の根底にある「人 し開催されています。 人を思いやる心」「互いに協

年事業の体験発表などが行わ れました。 校吹奏楽部による演奏・青少 る少年の主張大会・岩川小学 した。当日は小・中学生によ 内容を一部省略して行われま 防止のため3年ぶりの開催で、 新型コロナウイルス感染症

とを学んだ一日となりました。 情で発表に聞き入り、多くのこ 会場の子ども達は真剣な表

当日 於市の子ども達の祭典 「第17回曽於市子ども

少年育成の日」に末吉総合セ フェスタ」が10月15日の「青 ンターで開催されました。 子どもフェスタは、子ども 【小学生の部】 **番査結果(敬称略**

僕が目指すリーダーとは」 光神小 6年 地主園 彩斗

たった一つの命」

少しでも広がれば」 諏訪小6年 松ケ野 來愛

いつか会える日まで」 大好きな学校とぼく」 ONETEAM~心をひとつに~」 わたしのなりたい私」 岩北小 6年 岩川小6年 上岡雛那 財部北小6年 柳迫小 6年 西久保紗彩 末吉小6年 大路龍義 徳満 愛菜 丸田龍成

中学生の部 取優秀賞

私の願い」

財部中3年

竹内愛結

世界中に平和と笑顔を」 人とのつながりを大切に 末吉中1年 末吉中2年 有川心花 桐木平麗乃

お楽しみ抽選会

少年の主張大会 小学生の部【最優秀賞】 「僕が目指すリーダーとは」

たことや将来の夢などにつ いて発表しました。 小中学校の代表が経験し

彼が「みんな集まって。今から うな人ではなかった。けれど、 は、決して大きな声で怒鳴るよ ゲームをするよ。」 ぼくが三年生のときのこと 当時六年生だったるいさん

う。悩んでいたぼくに母が言っ きない。どうしたらるいさんの リーダーとしての素質を持って ていた。今思えば、るいさんは るいさんの言うとおりに集まっ と声をかけると、なぜかみんな、 た。「リーダー研修に参加して ようなリーダーになれるのだろ てしまう今のぼくには、到底で 言うことを聞いてくれるなん いたのだろう。みんなが自然に ついつい強い口調で命令し

光神小6年 地主園 彩斗 る気いっぱいで申し込んだ。 かもしれない。ぼくは早速、

近なリーダーがぼくの理想だ。 そうして、それぞれの意見を聞 ずは、一人ひとりをよく知り、 はもっとリーダーとして大切な で、時には譲ったり、妥協する 理解し合おうと努力するなか き、自分の意見も言う。互いに 理解することが大切だと思う。 るかもしれない。それを解決す まれば、けんかやいじめも起き えや意見の違う人間どうしが集 在だ。中学校に行けば、今より んなの仲介役になれるような身 るにはどうしたらよいのか。ま みんなに信頼され、頼られる存 ことも必要だ。そのような、み い友達ばかりになるだろう。考 人数も増え、顔も名前も知らな しかし、リーダー研修でぼく ぼくが考えるリーダーとは、

出して、あわてて戻ったら、メ 気持ちが大切だということだ。 ことがあり、それを感謝する けられたり、教えられたりする あっても、時にはメンバーに助 かない。そして、協力し合うと も、そんな人はリーダーには向 の人にも迷惑がかかる。そもそ は、本当にありがたいとその時 こうしてカバーしてくれる存在 いたのだ。ぼくの失敗やミスを、 なったが、うっかりして食後の リーダー研修でぼくは美化係に いうことは、 ンバーのひとりが拭いてくれて 台拭きを忘れてしまった。思い たとえリーダーで

とみんなが幸せになれる。それ て、みんなと助け合って生きて 同じ目線でみんなと寄り添っ リーダーになっても、みんなと い。でも、ぼくは決して偉くな ダーは、完全無欠のヒーローの でいい。ぼくはそんなリーダー そんなリーダーがいれば、きっ する気持ちを忘れないことだ。 なのは、相手を思いやり、感謝 いし、優れてもいない。たとえ ような存在だったかもしれな ぼくが始めに考えていたリー リーダーとして最も大切

中学生の部 「私の願い」 【最優秀賞】

財部中3年 竹内愛結



重さを痛感した。 会いから、「死」という言葉の 出会えたら。」という本との出 「あの花が咲く丘で、君とまた 掛かりを覚えるようになった。 を得た今、私はその言葉に引っ も、「死」について考える機会 ど気に留めていなかった。 よく耳にする。今まではそれほ ぬ気で頑張れ」などの言葉を 「死ぬほどきつかった」や「死 私は普段の学校生活の中で、 で

らを省みず、 の結末を教えようとした。 は彰や他の隊員たちに、戦争 員の最期を知っている。 百合は、戦争の結果や特攻隊 る彰と出会う。現代に生きる イムスリップし、特攻隊員であ 一人の少女、百合が過去にタ 敵に突進する行 百合 自

> 言かわかるまでに、さほど時 動や行動から徐々にわかって 私の言葉を届かせなかった。 を持つようになった。しかし、 のときから、そのような発言 間はかからなかった。私はそ んなに残酷で、許されない発 達に言う人もいる。それがど 私も友達も当たり前のように や「死にそう」という言葉を、 何気ない会話でも、「死ぬほど」 言動を振り返った。友達との 発言していないかと、自分の は「死」について軽々しく考え、 いった。この小説を読んで、私 た。でも、答えは特攻隊員の言 うのに、なぜ笑っていられるの しないうちに死んでいくとい ている。なぜなのだろう。 彰たちは仲良く笑って過ごし 死が身近でない平和な時代が、 をしている人に注意する勇気 口にする。冗談で「死ね」と友 だろうか。私にはわからなかっ たちはまだ若くあと何カ月も の結果を知らないにしろ、自分 為は無意味であると。なのに、 た理由、 当たりにして、私は何とも言 が怖くなかったわけではない。 が現代を生きる私たちにでき 願し、一人で散るという選択 のために死にます」と自ら志 できると喜んでいたのだ。「国 が特攻機で突撃することで、日 彼らが、自分が死ぬのをわかっ 笑顔で特攻機の前に立ってい また、特攻隊員に関する平和講 えない不思議な感覚に陥った。 人の人生を守りたかったのだ。 自分の命を捧げてでも、愛する るだろうか。彼らは決して死 誇りを持ち、やっと祖国に貢献 自分の死が誰かを救うことに と信じて疑わなかったからだ。 本や愛する人が守られるのだ ていながら笑って過ごしてい でいる写真なども見たりした。 る写真や、 話を聞いたり、

それは、彼らは自分

前の晩に仲間と遊ん

突撃する直前に

手紙などを目にした。今まで本 こで初めて、特攻隊員の写真や 特攻隊について学んだ。私はそ 旅行で知覧特攻平和館に行き、 そんなとき、私たちは修学

> とした彼らが生きた証を目の 犠牲にしてでも祖国を守ろう と思い知らされる。自分の命を の中だけでの存在であった彼 めにも、 えてくれた特攻隊員たちのた 自分が犠牲になれば

それが私の、 葉の意味を自分なりに理解し なかった人たちにできる最大 それが、生きたくても生きられ だ。苦しくても、辛くても、生 ある。天国を夢見られるのも、 現代に生きる私たちの義務で に自分や他人を殺せてしまう 来につながる。これが、簡単 変えることだ。とても難しい ことの価値を学んで、自分を ることだ。戦争から、生きる たちの想いを想像して発言す え、「死」に宿るたくさんの人 という言葉の意味について考 ことに希望を見出してほしい。 てほしい。自分や他人が生きる の礼儀になる。「死」という言 きることを諦めてはならない。 精一杯生きたと言える人だけ 言葉遣いや意識が、きっと未 ことだが、これからの私たちの できるだろうか。それは、「死」 ず、生に希望を持つために何が できるだろうか。 日本に生きる私たちに、 彼らが守ってくれた現代の 一番の願いだ。 死を軽んじ 何が

身をもって戦争の残酷さを教

二度と繰り返してはならない。

通なのだ。このような戦争は 生きたいと願うことそれが普